

グベスーメの公立幼稚園の開園式の報告

2022年5月19日

木曜

5月19日木曜は祝日でした。みんなの笑顔、Vie&Cultureというバンドの演奏で、ゲストたちはみな、歌ったり踊ったりしました。感謝の挨拶や、万歳の叫び、そして子供たちの幸せそうな様子！この日はグベスーメの幼稚園の開園式が行われ、美しく飾られた建物が建築プロジェクト担当者から公的に委譲されました。開園式には全村民のみなさんと多数の、地方や国や政府の担当役人の方々が参加されました。



開園式の流れ

長い旅と、ウメ河の支流の一つをカヌーでゆっくりと移動して、私たちはグベスーメ村に9時30分に到着しました。到着の際、この村の人たちは全員、伝統的な衣装に身を包んで待ち構え、私たちが喜んで迎えて下さいました。その際、女性たちは音楽をかなで、小学生たちは列を作って、Actions de Solidarité・連帯のアクション・会の会長である當田アストリットに道順を示しました。



Vie&Culture は式典を音楽で開始しました。村の人たち全員が踊り、歌いました。続いて、當田アストリット会長には、グベスーメの公立幼稚園のための偉大な貢献への感謝の徴として伝統的な衣装が着せられました



村のしきたりで重要な「夜の守護者」（サングベテ）が登場し、村の人たち全員に踊りや歌を呼びかけました。



連帯のアクション会と、そのパートナーに対する幼稚園建設への感謝の言葉が多々続きました。園長先生が祝賀会を歌で開始し、それを幼稚園児たちが共に歌いました。園長は「私達の喜びはとても大きくて、感謝の気持ちをどんな言葉で表現していいか、分かりません。」と言いました。



それから、市長、地域代表、村長、会の会長、両親の代表、グベスーメ村発展会の代表、その会の実務部長が、それぞれ、この非常に辺鄙な場所にある幼稚園の園児たちが、よりよく学べるためのプロジェクトに対する感謝を表現するために、挨拶しました。



その後カギ委譲がおこなわれました。連帯アクション会の事業女性部長がシンボルである子供たちの代表にカギを渡し、それから代表は市長にカギを渡して、それにより、この建物の維持と秩序にあった利用についての主な責任が市長にかかることになりました。



続いて全員が建物の入口に行き、テープ切りおこなわれ、これで作業終了となりました。



幼稚園にはグループ用の二つの部屋に、戸棚とおもちゃの家がついていて、事務室には教育資材とおもちゃの入った戸棚があり、外には4小部屋付きのトイレ、そして敷地内に遊具が設置されています。





その後、村や、国や政府の担当官が子供たちへの、はなむけの言葉を黒板に書きました。



村の女性たちがこの地方の、トウモロコシのおかゆと魚つきの食事を用意して、解散前に全員でおいしくいただきました。

将来への展望

グベスーメの公立幼稚園が開園されたことが、この村の人たちの生活に大きな前進と子供たちの学びにより条件をあたえることを意味しても、忘れるべきでないのは、この村が特に辺鄙な場所にあり、なかなか行きつけない場所であることです。市長が開園式のときに特に強調していたのは、この地域への電力供給と飲料水の確保でした。実際、建設作業中、非常に困難だったのは、飲料水確保だったことを記憶するのは重要です。建設作業への水は、河があるので、問題なかったのですが、このような条件に慣れていない作業員が清潔な水を得られず、下痢が流行してしまいました。この関連で、医療アクセスの問題も同時に語られました。ここは飛び地だからです。

